

ブリティッシュスタイルの金管バンド

東京ブラスソサエティ

第50回 記念定期演奏会



Yamamoto
Takeo



Hara
Susumu



演奏：東京ブラスソサエティ

ブリティッシュブラスの原点 オリジナル作品の夕べ

I 部

指揮 原 進

Cond. Hara Susumu

マーチ:パンチネロ ウィリアム リマー
March PUNCHNELLO William Rimmer

ムーアサイド 組曲 グスタフ・ホルスト
A Moorside Suit Gustav Holst
Scherzo / Nocturne / March

ヴァリエーション フォー ブラスバンド ラフル・ボーン・ウィリアムズ
Variations for Brass Band R. Vaughan Williams

II 部

指揮 山本武雄

Cond. Yamamoto Takeo

労働と愛 パーシー・フレッチャー
(1913年 英国初のオリジナル作品)
LABOUR AND LOVE Percy Fletcher

金管バンドのための小組曲 作品80 マルコム・アーノルド
Little Suite for Brass Band Malcolm Arnold
Prelude / Siciliano / Rondo

トリティコ フォー ブラスバンド ジェームズ・カーナウ
TRITTICO for Brass Band James Curnow

2026/5/28 【木】 18:30 開演 (18:00 開場)

江東区文化センター・ホール

TEL 03(3644)8111 東京メトロ東西線「東陽町駅」下車1番出口 徒歩5分

入場料 2,000円(一般)
1,000円(小・中学生)

主催/東京ブラスソサエティ
後援/日本ブラスバンド指導者協会
チケット取扱い/ティアラこうとう 03-5624-3333

協力/公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団
協賛/株式会社 ヤマハミュージックジャパン
問い合わせ/山本:TEL&FAX 03-3931-0676

TOKYO BRASS SOCIETY

東京ブラッソサエティ(T.B.S)は1972年に我が国初の本格的なブリティッシュ・スタイルの金管バンドとして創立されました。本年(2026年)創立54周年を迎える事が出来ました。

創立当時は、まだブリティッシュ・スタイルの金管バンドの楽器編成も、演奏法も手さぐりの状態でしたが、レコード等で聞いた英国のバンドの響きのすばらしさに魅せられて、私達も何とかしてあのようなサウンドを出したいという事で、さまざまな努力をしました。

最初は英国のサウンドをまねるところから始めました。英国のバンドは160年以上の歴史があり、このスタイルのバンドが社会に根づいています。英国では子供の頃から、このサウンドを耳にして育っています。私達のように初めてこのスタイルを演奏する者にとっては大変です。英国から指導者を迎えて指導してもらったり、直接英国をおとずれて本場の英国のサウンドを見聴きしているうちに、少しずつですが、前にもましてこのスタイルのバンドのすばらしさが、判ってきました。

英国の金管バンドは、金管楽器の合奏でも、トランペットやフレンチホルン等を使用せずに、コルネットやフリュゲルホーン、アルトホルン、バリトンホルン、ユーフォニアム、E♭バス、B♭バスという、いわゆるサクソルン属の楽器を使用して編成されています。このサクソルン属の楽器というのは、楽器制作者で研究家として有名なベルギーのアドルフ・サクスの考案した一連の楽器群です。

サクスは今のサクソフォーンを発明、開発した人ですが、金管楽器群にも、ソプラノからバスの声部全て奏でる一連の金管楽器群を開発しました。E♭管と、B♭管の二種類で、E♭ソプラノから、B♭バスまでを一つの楽器のファミリーのように7種類の楽器で作り上げました。トランペット等の円筒管部分を多く持った楽器は、明るく輝かしい音色になりますが、このサクソルン属の楽器はトランペット等にくらべると円錐管部分を多くもっていますので音が柔らかく、他の楽器とのブレンドがよく出来ます。

英国では、1850年頃からこのサクソルン属の楽器で編成された本場のブラッソバンドが盛んになり、1853年から毎年全英のナショナルチャンピオンシップというコンクールを行い現在もつづいています。

この間、英国のバンドのレベルは大変向上し、有名な作曲家や編曲者が数多くのオリジナル作品をはじめ、オーケストラの名曲を編曲しています。

日本においては、東京オリンピック(1964年)の頃、小学校にバンド活動が出来るかを研究し、最初はトランペット鼓隊として、金管楽器の導入を行いました。その後、各地の小学校に於て、実験教室を行い、指導法の研究や、教則本の作成を行い、ブラスアンサンブルの型を取り入れながら、金管バンドの普及につとめました。この50年間に小学校において金管バンドが盛んになり、今やその頃金管バンドを経験した子供達が、音楽大学に進み、卒業してから指導者となって、各地で金管バンドが大変多くなってきました。

1998年には、日本吹奏楽学会において、私達、東京ブラッソサエティが、日本吹奏楽アカデミー賞(啓蒙部門)に選ばれました。このアカデミー賞は、年間を通して吹奏楽及び管打楽器の分野に関する特にすぐれた活動に対して表彰されるものです。

ブラッソバンド(金管バンド)の研究と普及を目的として1972年に創立されて以来、日本において数々の初演を行うと共に、金管バンドという編成を示し、吹奏楽とは異なった編成ですが、音楽のすばらしさ、楽しさを求めてきました。金管楽器と打楽器のみの合奏、本場のブラッソバンドで、「どのような音楽表現が可能か」というのも研究課題です。

創立54周年を迎え、定期演奏会も50回(年度で50年目)を数える事が出来ました。今回第50回記念定期演奏会では、ブリティッシュ・ブラス(ブラッソバンド)の原点を考え、オリジナル作品の中でも、初期に作曲され、英国はじめ世界中でブラッソバンドの基本となっている曲をプログラミングしました。第I部では原進氏を指揮者に迎えます。第II部は山本武雄の指揮です。

英国のブリティッシュ・サウンドの原点を、ぜひお聴き下さい。ご家族でおいで下さい。

東京ブラッソサエティ 代表
洗足学園音楽大学名誉教授
日本ブラッソバンド指導者協会 理事長 **山本武雄**

指揮者プロフィール



原 進 Susumu Hara

洗足学園音楽大学音楽学部器楽科を卒業。トランペットを津堅直弘、太田聡の両氏に師事。ブラッソバンド・吹奏楽の指導法を山本武雄氏に師事。同大学「卒業演奏会」に出演し優秀賞を受賞。1996年「茨城県新人演奏会」オーディションに合格。同演奏会に出演し新人賞を受賞。トランペット奏者として吹奏楽、室内楽を中心に演奏活動を行うほか、各地の演奏会にゲスト出演している。また、日本では数少ないテナーホーン奏者としても演奏活動をしており、東京ブラッソサエティのソロホーン奏者を務めている。指揮・指導者としては東海村吹奏楽団常任指揮者、日立市民吹奏楽団音楽監督を務める他、数多くのブラッソバンド・吹奏楽団の育成に携わるなど後進の指導にも力を注いでいる。現在、洗足学園音楽大学、埼玉県立松伏高等学校の非常勤講師。その他、ソロ・アンサンブル・吹奏楽の各コンクールの審査員を務めている。日本ブラッソバンド指導者協会理事。日本吹奏楽指導者協会会員。



山本 武雄 Takeo Yamamoto

東京藝術大学音楽学部器楽科(トランペット専攻)卒業後、同大学管弦楽研究部のトランペット奏者として務める。1987年～1988年、文部省在外研究員として、英国及びヨーロッパ各国にて「金管合奏法の指導」研究のため渡英。英国ナショナルブラッソバンド協会から功労賞を授与され、英国ブラッソバンド協会会員、指導者資格を与えられる。1972年、我が国初のブリティッシュ・スタイルの金管バンド「東京ブラッソサエティ」を創立し、ブラッソバンドの研究と普及、発展に努めている。1998年、日本吹奏楽アカデミー賞を受賞。2019年、英国(ブリティッシュ・バンスマン)より、日本でブラッソバンドの文化を発展させた業績により、Herbert-Whiteley賞を受賞。日本管打・吹奏楽学会、日本吹奏楽指導者協会、「21世紀の吹奏楽」実行委員会等において吹奏楽の指導、客演指揮、審査員を務める。日本ブラッソバンド指導者協会理事長。2006年より洗足学園音楽大学教授・ブリティッシュ・ブラスアドバイザー、2012年より名誉教授。